

「生殖ビジネスの時代に、どう向き合えばいいのでしょうか」へのコメント

HP の「生殖ビジネスの時代に、どう向き合えばいいのでしょうか」の記事をお読みいただき、早速、コメントをいただきましたので、参考までに紹介します。

更に、いただきましたら、随時当ファイルを追加・更新します。

2007. 9. 20. 阿部幸泰

⑧確かに、生命は選択の余地がないからこそ、とても尊いものとして感じられるのかもしれないと思いました。

⑦先週は、子どもの「発達検査」予約を兼ねての診察の件で、〇〇大病院に出かけてきました。

「生殖ビジネス」のHPを拝見していた事と直接は、関らないですが、大学病院ならではの待ち時間を過ごしていると、様々な病気と向き合っているお友達、ご家族の方と出会いました。

私共も含めて、向き合って支えて下さる先生方等々、医療を活かす係わり合いってすごいなと改めて有難く感じました。

そして、命って本当に尊く愛しいと思いました。

恵まれた命を精一杯活かす事が、尊いのであって、その前段の神の領域にまで踏み込む事が許されるのかなとも疑問に感じてしまいました。

問いかけに深く考えを思いめぐらせていないですが、ふとこんな事を感じました。

⑥生殖ビジネスについて、私は「一歩進んだ生き方」とはあまり思えませんでした・・

不妊治療で待ち望んでいた方はいらっしゃると思います。

ですが、なんとなく生命を選択するということがすんなり頭に入ってこない感じです。

私にとっては、一歩わき道にそれつつあるように感じられました。

女である私ですら、ここまで強い女性がいるものなのかと思ってしまいました。

これが、私の率直な感想です。

⑤ HP 拝見しましたが、ちょっと考えがまとまらないです。

また、改めてお便りしますね。

④今、HPを覗きました！

そのドキュメンタリーは見てないんですけど…

「ザ・世界が仰天」で、精子バンクについて取り上げられていました。

それをたまたま見ていたので、ちょうど関心があったところでした。

父親の存在は重要だと思う。

今の私の人生から父親を欠いたら、成り立たないと思う。だが、それは、20年間父親がいる人生を歩んできたからだとも思う。

精子バンクから得た精子により妊娠し、産まれた子ども。

その子どもに真実を知らせなかったら…わたしほどの父親の重要性は感じないのだろうか、とも思う。

難しい問題ですね！！

③生殖ビジネスは、産まれてくる子供にとって良くない感じがした。

「結婚してからも自由を失いたくない」と言うのは、お母さんの自分勝手だし、やっぱり子供にとってはお父さんもお母さん必要だと思う。

②僕も昨日そのテレビ見ました。

生殖ビジネスは正しいとも間違ってるとも思いました。

でも納得できないし、嫌です。

生殖ビジネスによって生まれてきた子どもは、遺伝子的に繋がっている見知らぬ兄弟がいることに、疑問を持つのでしょうか？

そのような子どもが増えればそれが「普通」になっていくのでしょうか？

子どもを作ることへの考えが軽くなっていくのが怖いです。

①私も深夜に放送された生殖ビジネスの番組を見ました。

当たり前前に精子がインターネットで売り買いされている現実、そして精子を提供した人

の瞳の色や髪の色、年収までもを選び精子を買う人。

それを見てとても驚き言葉を無くしました。

私は人工受精を否定するつもりはありません。女性にとって妊娠とは人生の中でとても素敵なことだと思います。

しかし、相手も知らずに情報のみで精子を買う現実を受け止めがたいものがあります。

「生殖ビジネス」そんなものまでも出来てしまった世の中は、進歩しているようでとても悲しいものに思えました。

私（阿部）の返信

【 早速にご意見をお聞かせいただき、ありがとうございます。】

今までしばしば当 HP で、受精卵診断、着床前診断、代理出産、胎児超音波診断、男女産み分け、人工授精で産まれた子どもの問題、等々、触れてきました。

自然の摂理に伴う生命誕生現象周辺のことには、治療という名目であっても「生命選択」の余地を入れてはいけないと考えています。

「この治療のために」という「選択」判断の余地を入れると、「じゃあ、この治療は？」、「じゃあ、この問題（願い）のためには？」と、だんだん拡大していきます。

その延長線上に「精子、卵子バンク」の問題も起こってきていると思います。

また、人（生命）の一属性で生命の選択を許してしまうと、その延長にはナチスのユダヤ人殺戮に行き着くと思います。

人種というのは、その生命の一属性に過ぎず、ましてその人の責任でその属性を持ち合わせたことでないでしょね。

どの生命も、自らその属性を選んだ訳でないですよね。

その自らの責任でない属性で、優劣を付けて選別したり、不自由を与えることこそ、差別だと思います。

ですから、自然の摂理に伴う生命誕生現象周辺の問題に、人の選択判断基準の余地を入れるべきでないというのが自分の考えです。

また、技術の進歩だけが本当に人類の幸せに寄与することかどうかという、とっても根源的な問題がありますよね。

授業で「生きて行くのは、君たち自身のことだから日々考えるクセをつけるように」と話しているように、次世代に生きる若者たちが、生命を、また、幸せをどう考えるかが問われて行くことでもあります。

色んな情報に接する中で考えをしっかりと育くんで、そして大事と思うことを発信し続けてください。 】